

おみま

かもさいぐんさん

御三間 中段の間の障壁画「賀茂祭群参」



京都御所春の一般公開（平成25年4月4日（木）～8日（月））では、御三間等御殿内にLED照明を設置しますので、明るく障壁画がご覧いただけます。



御三間は、御常御殿西側、御学問所<sup>うらぼん</sup>の北にある御殿で、孟蘭盆などの年中行事の他、明治天皇が御幼少<sup>てなら</sup>の頃は、この部屋で「お手習い」が行われ、また明治天皇は孝明天皇が崩御されてからしばらくの間、ここを御常御殿代として使われました。

部屋は上・中・下段と3間あり、中段の間の障壁画は「賀茂祭群参」

で、駒井孝礼<sup>こまいこうれい</sup>が画きました。駒井孝

礼は、円山派の吉村孝敬<sup>よしむらこうけい</sup>に学び、人物画や花鳥画を得意としました。

賀茂祭とはいわゆる葵祭のことで、下鴨・上賀茂両神社に向かう行列の様子が部屋の四方の襖に画かれています。下図の北側襖絵では

ごへいびつ御幣櫃<sup>はくちよう</sup>（神前に供える御幣物を納めた櫃）を持つ白丁の一団や、御馬<sup>おうま</sup>、

ぎつしゃ牛車<sup>ぎつしゃ</sup>などが見えます。

(おり)  
《京都》御所と離宮の栞



— 京都御所 —

おみまひがしごえんぎしき  
御三間東御縁座敷

せいおうぼ  
杉戸絵「西王母」



この杉戸は以下のとおり展示します。  
京都御所秋の一般公開  
平成26年10月30日(木)～11月5日(水)  
御学問所北側



御常御殿西側にある御三間の東御縁座敷には、近藤  
りょうけい せいおうぼ  
梁溪が画いた2面からなる杉戸絵「西王母」があります。画  
面には、いし かしぼ  
椅子に座っている西王母、それと翳(顔を隠した  
り、威儀を正すために用いられた、扇に長い柄がついてい  
るもの)をさしかける侍女と、桃の実を持つ侍女が画かれて  
います。

せんがいきょう こんろん  
中国の地理書「山海経」では、西王母は中国西部の崑崙  
さん  
山(伝説上の山)にいる仙女であるとされ、豹の尾、虎の歯  
が生えている姿とされていますが、この杉戸絵には美しい  
仙女で画かれています。



しよ  
頭には西王母の象徴とされる「勝」という髪  
飾りをつけています。(写真:中段左側)

勝の形は中心部が円になっていて、その両  
側に台形状のヒレをつけたようなものであった  
とされています。



侍女が持っている桃の実(写真:中段右側)は、三千年に一度実をつ  
けるといわれ、この実を食べると長寿を得られるとされています。

椅子に座っている西王母の後ろや桃を持つ侍女の手前には、独特の皺と水の浸食の影響による弾窩と呼ばれる穴が特  
たいこせき  
徴の太湖石が画かれています。

ないしどころ とうぼうさくせいおうぼ  
西王母については、京都御所の内侍所(神鏡を奉安していた建物)にも狩野野信によって画かれた襖絵「東方朔西王母」  
てんと  
がありましたが、東京奠都により内侍所が使用されなくなり、建物は檀原神宮創建に際し明治22年に移築されました。

お み ま ち ょ う が  
御三間上段の間 朝賀図



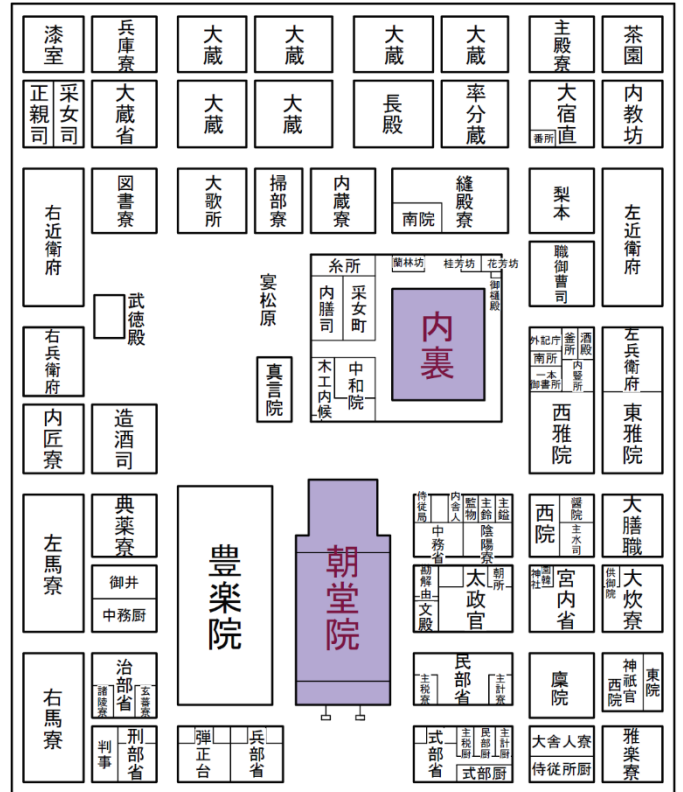
御三間上段の間

京都御所の御三間上段の間は、「朝賀図」(住吉弘貴筆)と題された障壁画に彩られています(葉其の十四)。朝賀とは、奈良時代から平安時代中期にかけて宮中で行われていた年中行事であり、元日に天皇が大極殿の高御座に出御し、庭に列立した皇太子以下群臣の祝賀を受けました。

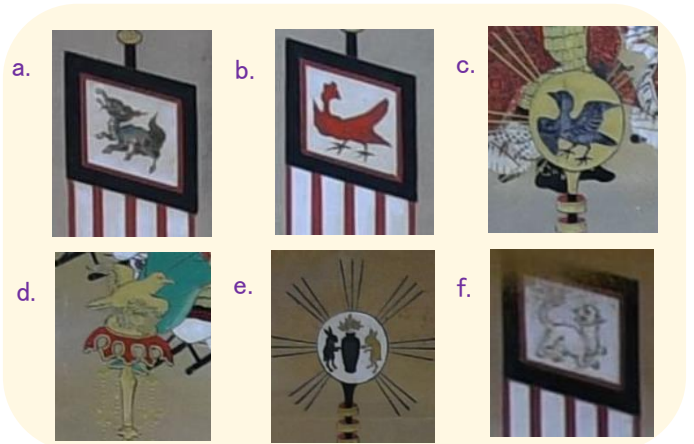
大極殿とは宮城の中枢である朝堂院の正殿であり、平安宮朝堂院は天皇のお住まいである内裏の南西に位置します。大極殿の前には、儀式用の広大な前庭が広がり、殿に近い部分は龍尾壇と呼ばれて一段高くなっていて、朝賀では龍尾壇の高欄に沿って7基の大きな旗が立ち並びました。

皇太子が龍尾壇から大極殿に昇殿し、祝賀の言葉を述べて拝礼を行った後、官人の代表者(「奏賀・奏瑞」と呼ぶ)が龍尾壇上に進んで祝賀を行い、全参列者の拝礼が続きます。

「朝賀図」北4面には、大極殿(中央に高御座の浜床がみえる)から龍尾壇付近までが画かれ、皇太子と奏賀者が登壇し(本来の時系列では両者の登壇は前後する)、壇下に親王や一位以下の官人達が列立する場面が画かれています。



平安宮(大内裏)建物配置図



建造物

- ①大極殿(右上)
- ②蒼龍楼(右下)
- ③龍尾壇(左上)

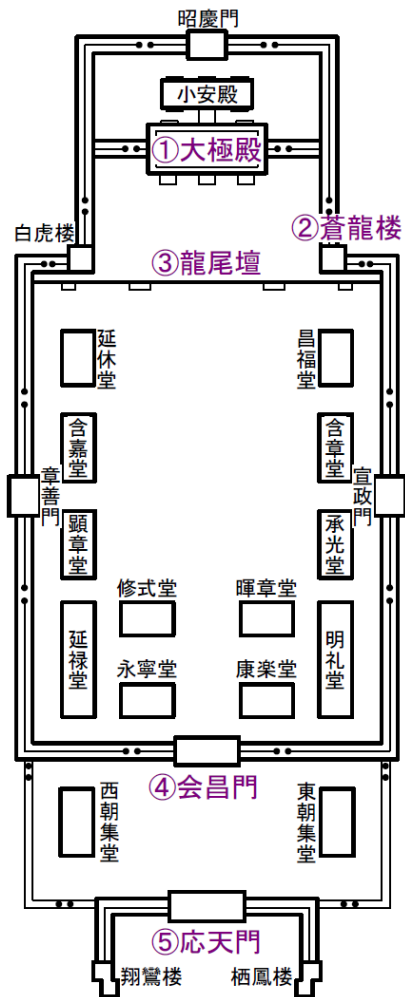
大旗(右より)

- a.青龍旗
- b.朱雀旗
- c.日像幢
- d.銅鳥幢
- e.月像幢
- f.白虎旗
- 玄武旗

冕服姿の皇太子→



御三間上段の間「朝賀図」住吉弘貴筆 北4面



平安宮朝堂院の平面図



御三間上段の間「朝賀図」西4面

**建造物** ④会昌門【龍尾壇の南側に列立する親王以下群臣】



御三間上段の間「朝賀図」南4面

**建造物** ⑤応天門 大旗 g. 鷺像纛幡【衛門府の陣】



御三間上段の間「朝賀図」東5面

**建造物** 朱雀門【応天門の南にある朱雀門(平安宮正門)付近の儀仗】

「朝賀図」の特徴は、儀式の一場面およびその会場全体が、部屋の四方全面を使って画かれている点であり、部屋の北東に画かれた大極殿を起点に、反時計回りに視線を移していくと、儀式の場をパノラマで俯瞰できる構図になっています(例えば、前頁の龍尾壇下の官人の列が、部屋西面の右側の画面に続いていく)。

朝賀は、宮中の儀式のなかでも参列者・会場ともに最もスケールの大きな儀式であり、唯一同様の形式で行われるものに、即位の儀がありました。朝賀は平安中期に途絶えてしまいますが、一代一度の即位の儀式は現代まで続き、紫宸殿上の高御座や帽額、および庭上の旗などの装飾品に、その伝統の面影をみることができます。

「朝賀図」が画かれた御三間は、孝明天皇が崩御されたあと、御常御殿の改修を終えるまで明治天皇がお住まいになった殿舎で、その際には上段の間に剣璽が置かれました。即位の礼を控えておられた明治天皇がどのような思いでこの障壁画を御覧になったのか、想像は膨らみます。



本年(平成30年<2018>)は、明治元年(1868)から150年という節目の年を迎えました。ここでは、『明治天皇紀附図』により、京都御所を舞台とする若き日の明治天皇のご足跡をたどります。

『明治天皇紀附図』は、昭和8年(1933)『明治天皇紀』に添えて昭和天皇に奉呈された全81枚の絵図で、<sup>こせだほうりゅう</sup>二世五姓田芳柳により明治天皇の主要な御事蹟が画かれています。『明治天皇紀』は、明治天皇の伝記とその背景となる歴史事実、ひいては国史の役割を企図したもので、『明治天皇紀附図』は同書の理解の一助とするべく、歴史考証に基づいて画かれています。



ふかそぎ  
深曾木



深曾木 (御物 『明治天皇紀附図』)

万延元年閏3月16日(太陽暦:1860年5月6日<以下、各項目の日付には太陽暦を付す>), 京都御所の御三間<sup>おみま</sup>において、数え9歳になられた祐宮(明治天皇の幼少時の称号)の深曾木の儀式が行われました。深曾木とは、2,3歳頃に行われる<sup>かみおき</sup>髪置の儀式の後、長く伸びた髪の毛のすそを削ぎ揃える儀式で、髪曾木ともいわれます。当日は、御三間の上・中・下段の間の御簾を垂れ、中段の間の中央に「二帖台」とよばれる厚畳二帖を敷き、その上に吉方(東南)に向けて碁盤を置き、深曾木を行われるところとします。父帝である孝明天皇は上段の間に出御されました。

祐宮は、<sup>どうぎょうふく</sup>葡萄色の童形服(亀甲文様地に白菊文様をあしらう)を身に着けて碁盤に昇り、吉方に向かって立ちました。その際、盤上に置かれた青石2個を両足で踏み、右手に末広の扇、左手に松と橘の枝を持ちます。禊ぎのための青石は下鴨神社の御手洗川、<sup>びんおや</sup>長寿や子孫繁栄の象徴である松や橘は神楽岡から集めるのが例であり、<sup>いちじょうただか</sup>どれもこの儀式には欠かすことができないものです。<sup>びんおや</sup>鬢親である左大臣一条忠香が二帖台に昇り、祐宮の髪を削ぎました。その作法は、髪を櫛で<sup>こうがい</sup>左・右・中の順に下から上に撫で、次に髪搔で同様に梳き下し、最後に、はさみで一寸ほど削ぎ揃えます。理髪を終えた祐宮は、吉方に向かって碁盤から降りました。

続いて、祐宮は髪を左右に結び、御常御殿に参上して天皇に拝謁し、二献の盃を賜りました。その後、天皇から贈られた落瀧津の文様の振袖に袴を着けて再び拝謁しました。これを着袴の儀といいます。落瀧津の文様は平安時代末の和歌にちなむ伝統的な意匠であり、勢いよく岩を越えていく無数の波に千代の年齢を重ね、長寿への願いが込められています。

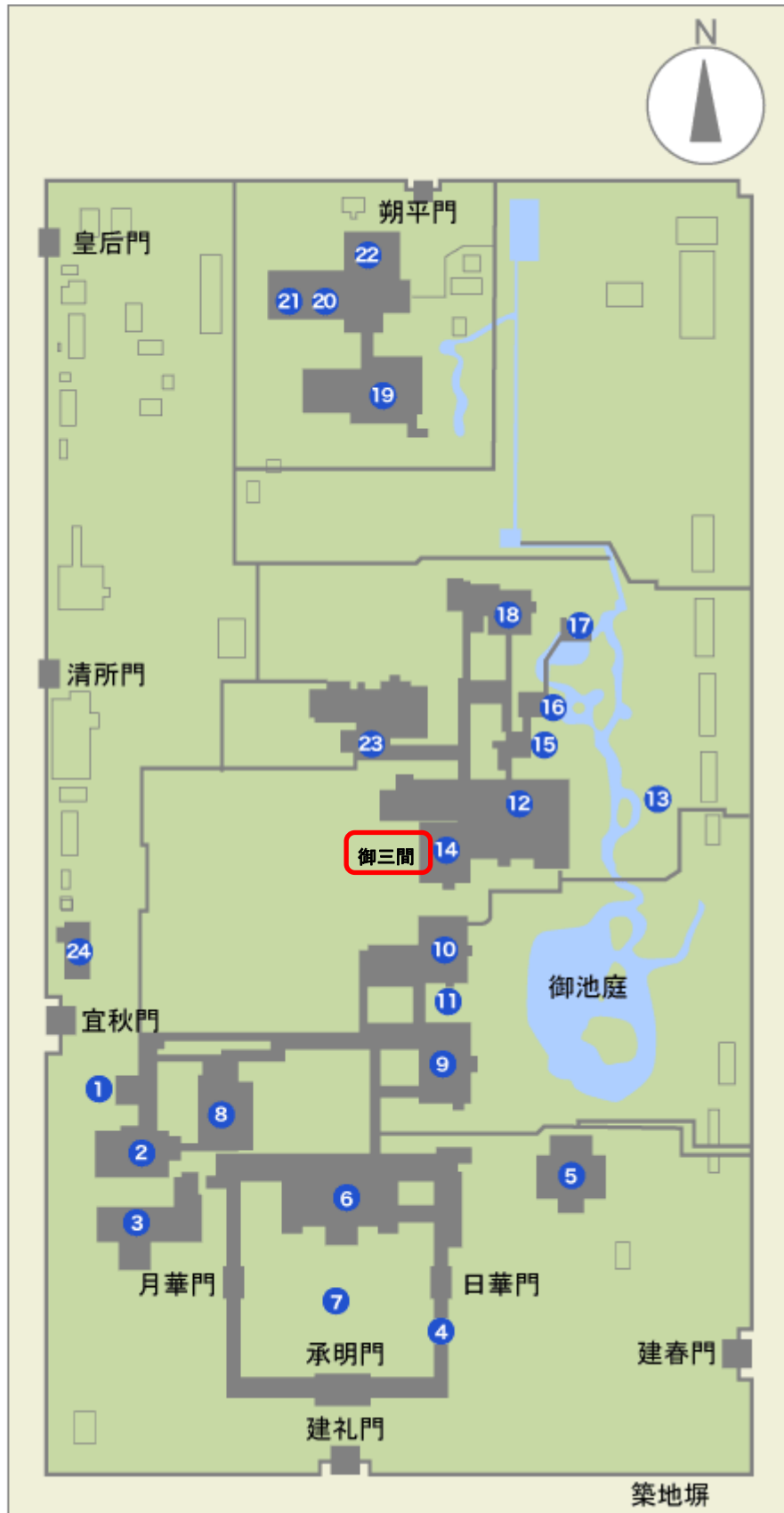


御三間 (奥から上段・中段・下段の間) ◆

ここで紹介した『明治天皇紀附図』の写真を「京都御所 宮廷文化の紹介」<平成30年秋>にて御三間前に展示します

# 京都御所案内図

- ① 御車寄
- ② 諸大夫の間
- ③ 新御車寄
- ④ 回廊
- ⑤ 春興殿
- ⑥ 紫宸殿
- ⑦ 南庭
- ⑧ 清涼殿
- ⑨ 小御所
- ⑩ 御学問所
- ⑪ 蹴鞠の庭
- ⑫ 御常御殿
- ⑬ 御内庭
- ⑭ 御三間
- ⑮ 迎春
- ⑯ 御涼所
- ⑰ 聴雪
- ⑱ 御花御殿
- ⑲ 皇后宮常御殿
- ⑳ 若宮御殿
- ㉑ 姫宮御殿
- ㉒ 飛香舎
- ㉓ 参内殿
- ㉔ 参観者休所



**観**マークは、参観でご覧になれます。申込み方法は、<http://sankan.kunaicho.go.jp/> をご覧ください。

**通**マークは、申込不要の京都御所通年公開でご覧になれます。

詳細は、<http://www.kunaicho.go.jp/info/kyototsunen-sks-sankan.html> をご覧ください。

これまでの「《京都》御所と離宮の栞」については、宮内庁ホームページの[こちら](#)からご覧ください。

<問い合わせ先>  
 〒602-8611 京都市上京区京都御苑3 宮内庁京都事務所  
 代表電話：075-211-1211 参観係直通電話：075-211-1215